（様式１）

学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立愛日小学校

■　学校の共通目標

授業づくり	重点	児童が「問い」を立てる活動を重視し、児童の主体的な学びを引き出せるようにする。また、立てた「問い」について対話を通して学ぶ活動を取り入れることで、児童の深い学びへとつながるようにする。	中間評価	これまでに行った、２つの研究授業成果として、児童が自ら「問い」を立て、それを追究するために主体的に学習できるようになってきた。	最終評価	
環境づくり		愛日スタンダード等を基にして、全学年統一した学習規律の徹底とhyper-QU の活用等による児童理解をすすめ、自己決定の場の確保や自己肯定感をもたせる学習環境を整える。		hyper-QU の結果から学級の状況や児童の状態を読み取り、児童理解や学級経営に活用できた。また、学習規律の徹底は生活指導と連携しながら継続して行う。		

■　学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課　題（10 月）	改善のための取組み（10 月）	最終評価（２月）
1	国語	学意欲的に学習や様々な課題に取り組み、発言も活発な児童が多い。発言の話型に沿った話し方ができる児童が多くなった。 学鉛筆の持ち方に癖がある児童、ひらがなの書き順や形が自己流で、なかなか正しく書くことが難しい児童がいる。 学友達の意見を最後までしっかり聞く力に欠ける児童がまだ多い。	・鉛筆の持ち方に癖がある児童、書き順を誤ってひらがなや漢字を書いている児童がいる。 ・話を聞く際、手遊びをやめられない児童がいる。	・漢字練習の際には、机間指導で個々の鉛筆の持ち方、書き順について教師が確認し、誤っている場合にはその都度指導をしていく。漢字学習に関しては全体指導の際に、書き順を繰り返し指導する。 ・話を聞く際、常に話者に視線を向ける、手は動かさないなどの指導を徹底していく。	
	算数	学１～１０までの数については、ほとんどの児童が数えたり、数字を書いたりすることができる。学習にも意欲的に取り組む児童が多い。	繰り上り、繰り下がりの計算になり、理解力や計算速度に関し、児童の能力差の開きが大きくなってきている。	・理解が早い児童には、難易度をあげた問題を多く用意して取り組ませ、課題のある児童は個別に指導するなどの授業展開を工夫して行っていく。	

学年	教科	学習状況の分析（４月）	課　題（４月）	改善のための取組み（４月）	中間評価・追加する取組み（10 月）	最終評価（２月）
2	国語	学　音読作品の暗唱に意欲的に取り組んでいる。その効果もあり、教科書にある文章の音読に時間を要しない。	・漢字のレベルが１年生時に比べて上がり、画数が多いために筆順を覚えるのに苦労している。 ・同音漢字を意味に合わせて使うことに課題がある。	・新出漢字の学習の際、全体指導を徹底し、反復練習を行う。 ・文作りの際に、同音の漢字について触れ、それぞれの意味について伝えるようにする。	・新出漢字を早めに学習し終え、テストを繰り返し行うなど、定着を目指し取り組めている。	
	算数	学　基礎・基本の学習が定着している児童が多い。意欲的に課題に取り組んでおり、分からないときは、質問をして理解し、次に進もうとしている。	・単純に答えを発表できる児童がほとんどだが、自分の考えを言う場面となると尻込みしてしまう児童もいる。	・考えや意見をまとめる時間を与えたり、近くの児童と意見交換する場面を与えたりして自信をもたせ、発表する意欲につなげるように指導を進めていく。	・話合い、学び合い活動に適した授業の際、ペアや集団学習を積極的に取り入れ、発表意欲及び技術の向上につなげられている。	
3	国語	学　「問い」を基に読み進める学習をすることで、事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読むことができるようになってきている。 調　学力テストの結果では、全領域で全国平均を上回っている。平均を上回っているが、文字に関する事項「漢字の筆順」に課題がある。	・漢字の筆順を重要視した学習への取り組みが弱かったため、漢字の筆順の正答率が低かった。	・正しい筆順を覚えられるように全体指導を徹底する。	・新出漢字の学習の際、全体指導を徹底し、漢字の書き取りテストをこまめに行ったので、きちんと丁寧に書けるようになった。 ・物語文でも「問い」をもたせて、読解を追究していけるように指導する。	
	算数	学　ペアやグループでの学び合いの授業から、既習内容を生かして意欲的に課題に取り組むことができた。 調　学力テストでは、全項目平均を上回っている。しかし、数直線や数の構成、かさに関しての正答率が低い。	・数直線や数の構成、かさに関して学習の定着が確実でなかったため、正答率が低い。 ・該当単元を学習している際にはできるが、まとめのテストになるとできない児童が多い。	・復習用の問題を繰り返し指導していく。	・以前に学習した単元の復習問題も宿題などで出すことで、より一層学習内容の定着を図ることができた。 ・東京ベーシックドリルを活用して、苦手分野を明確にし、今後の個別指導に役立てる。	
4	国語	学　「問い」を中心に学習を進めることで、登場人物の心情の変化を捉えることができるようになってきている。 調　学力調査の結果は全国平均を上回っているが、文章を分かりやすく書く項目に課題が見られた。	・漢字の送り仮名を正確に書くことを苦手にしている。 ・要点をまとめて書くことが苦手な児童が多い。	・毎日の漢字練習の宿題と、小テストでの反復練習を行う。 ・新聞つくりや意見を書くなど、自らの考え等を短文にまとめる練習を行う。	・文章を読む際に、意味を確認したり、前後のつながりを確認したりするなど、丁寧に読ませる指導をする。漢字は、日々の練習で注意を促していく。	
	算数	学　グループの学び合い学習をもとに、友達の意見を聞いて自分の考えを広げたり深めたりしようとしている姿が多く見られるようになってきている。 調　学力調査の結果は、全国平均を上回っている。しかし、基礎的・基本的計算の習熟に課題が見られた。	・繰り上げや繰り下げなど簡単な計算で間違うことがある。	・見直しをしたり、丁寧に数字を書いたり、落ち着いた学習の態度を養う。	・定期的に復習をし、確実に理解させていく。日々の宿題などで計算スキルをさらに向上させていく。	

5	国語	学　「問い」を基に読み進める学習により、物語の登場人物の心情についての描写をとらえ、考えを広げながら読むことができるようになってきている。 調　学力テストの結果では、全領域で全国平均を上回っている。特に、文章の構造や目的を「読む能力」の正答率が大きく上昇した。	・丁寧に字を書くことや、目的を意識して文章を書くことに、苦手意識をもつ児童が多い。	・毎日取り組む漢字の宿題では、丁寧に書く意識をもてるよう指導する。 ・週に１回、自主学習の課題を出す中で、自分の好きなテーマで作文を書くなど、意欲的に書くことができるようにしていく。	・引き続き丁寧に取り組むように声掛けをする。「とめ、はね、はらい」などの細かい部分も個別に指導していく。 ・自主学習などで自分の考えを書く機会を増やすことで書くことに慣れてきた。友達との交流を通して自分の考えに自信をもち意欲的に書けるように指導する。	
	算数	学　グループでの学び合いの授業から、既習内容を生かして自身の言葉で説明できる力を養うことができた。 調　学力テストの結果では、全領域で全国平均を上回っている。特に「量と測定」や「図形」の領域が大きく上回った。	・簡単な計算の誤答がある。 ・道具を使って細かいところまで丁寧に作図することが苦手な児童が多い。	・見直しを徹底するよう声をかける。 ・作図のポイントを明確にし、丁寧に作図することができるよう指導していく。	・声掛けを行うことで簡単な計算の誤答は減ってきた。計算や作図を早く仕上げることができるようになってきたため、丁寧かつ正確に取り組むように指導する。 ・習熟度別指導により学習内容の定着を図ることができた。繰り返しが必要な児童や理解の早い児童など、習熟度別の学習進度、指導を進めていく。	
6	国語	学　「問い」を基に読み進める学習の継続することで、物語の内容や文章の構成を的確にとらえることができるようになってきている。 調　学力テストの結果では、全領域で全国平均を上回っている。領域の中では、自分の考えや主張を分かりやすく「書くこと」に課題があることが分かった。	・自分の考えを書くことを苦手に感じている児童が多い。 ・どのように書けばいいのか分からないと感じている。	・年間計画の中で、「書くこと」の単元を重点的に指導する。 ・書く前に構成を考える手順を指導する。 ・日常的に２００文字作文や日記など書く機会を増やしていく。	・文章を書く機会を日常的に増やしたり、他教科でも取り入れたりしている。全国学力学習状況調査の結果では「書くこと」に課題が見られた。４月から取り組んできたことを今後も継続していく。 ・「話すこと・聞くこと」を重点的に指導した結果、話す活動に意欲的に参加できるようになってきた。今後も自分の考えを話す活動を充実させる。	
	算数	学　グループでの学び合いの学習から、既習内容を生かして自身の言葉で説明できる力を養うことができた。 調　学力テストでは、ほとんどの内容について平均を上回っていたが、作図には課題が見られた。	・作図を苦手にしている。細かい作業を苦手にしている。 ・丁寧にかこうとする意識が低かったり、正確にかくことができなかったりする児童が多い。	・習熟度別指導をより一層充実させる。新しい単元に入る際はレディネステスト等を行い、習熟度のクラス編成に役立てる。 ・作図などの作業を丁寧に行う指導を徹底したり、練習問題を充実させたりする。	・習熟度別指導が効果を上げている。今後は単元の内容によって、児童の得意、不得意があるのでそこも考慮に入れ、さらに習熟度別指導を推進させていく。 ・作図などの作業に丁寧に取り組もうとする児童は増えてきている。今後も指導を徹底していく。 ・全国学力学習状況調査の結果から、多くの児童に学習内容が定着していることが分かった。今後は課題のある児童の苦手分野を克服できるように指導体制を工夫していく。	
音楽		学　言われたことや課題にまじめに取り組む児童が多い。合奏が好きな児童が多く、器楽の練習に前向きに取り組むことができる。	・難易度の高い課題に取り組んだとき、すぐにあきらめてしまう児童がいる。	・教材の精選、またスモールステップを作って、力を付けさせ自信をもたせながら丁寧に進めていく。 ・友達と教え合い、周りと関わりながら高め合う楽しさを感じさせる。	・楽曲の構成や、曲想について知識をもち、それを基に自分の感じたことを表現していくような問い掛けをしていく。 ・集中できない児童にも取り組みやすい課題を示したり、アドバイスしたり参加できるようにしていく。	
図工		学　どの学年も課題には前向きで、作ったり描いたりすることに楽しみながら取り組んでいる。また、他者の活動の様子や作品も興味をもって見ることができる児童も多い。	・形や色を通した造形的なものの見方や感じ方について、話したり聞いたりすることには興味をもっているが、発言する児童が限られている。 ・技巧的な面で思いを実現できなかったりする児童がいる。	・生活の中の様々なものやことを、造形的な視点で見たり、感じたりできるような「問い」や、対話する場面などから、思いを広げ、考えたことを形や色で工夫して表したり、お互いを認め合ったりできる指導の工夫をする。	・継続して造形的な視点で見たり、感じたりできるような「問い」や、対話する場面などを意識して設定していく。製作への思いが持続しない児童が見られたので、活動過程で一斉指導をしたり、個別の支援などをしたりしていく。	
特支		学　多くの児童が周囲の人間と好意的に関わろうとし、自分の思いを言語化することができる。	・相手を意識して聞くことや思いを共有すること、相手や状況に応じた言葉遣いをすることなど、それぞれの児童により課題が異なる。	・話を聞くとき、話すときのルールを日常的に意識付けながら対話力を高められるようにする。 ・相手の思いを受け止められるよう、必要に応じて教員が仲介して共有化を図る。 ・受容的な雰囲気をつくり情緒を安定させながら自己表現を促す。	・話を聞くときの態度については、個々の実態に応じて身に付いてきたといえる。相手の思いや意見を受けて自分の考えを言えるようになってきた児童も現れてきた。 ・個々のコミュニケーション能力の実態に応じ、相手に思いを伝えたいという意欲を大切にしながら、個別支援を含め関わりを続けていく。	

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況　　学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況　　※分量は２ページ以上となってもよい。